

令和3年度 学校自己評価 中間評価

上田市立武石小学校

学校教育目標		めざす子どもの姿	総合評価				
だれにもやさしく げんきよく しっかり学ぶ武石の子		学び合い高め合う子ども	子ども達は「自分は友達を大切にしている」ことを自覚しながら生活しているまた、全身を使って外遊びをする子が増え、活発に学校生活を送っている。(児童アンケートより) 各学級、学び合い高めあう学級集団となって日々学習・生活している。授業、児童会活動、音楽会に向けての練習の中で具現化された姿を確かめることができた。				
今年度の重点目標		「地域力」をベースとして効果的に「ICT」を活用して「学び合う」					
		成果と課題	総合評価	改善策・向上策		関係者評価(2月)	
重点1 「主体的・対話的で深い学び」のある授業		子どもが「やりたい」という気持ちになると自然と話したり、考えたりする姿があった。 授業に向かう基本の姿勢作りができた。 一斉指導、教師体児童の統率型の授業から抜け出せずいたり、子どもの意欲がわく授業に至っていないと感じる。 ICTを効果的に、活用していく必要がある。	B	吟味した学習課題の設定や子どもたちが学びたいようになるような投げかけや対話が生まれる追究場面の工夫など、準備していきたい。 研究会・職員会などで取り組みを紹介しあい、学び合いたい。職員会等でミニ研修をする。			
重点2 「地域力」をベースにした体験・交流など実践劇な学習		武石地域の素材を授業に生かした取り組みがなされた。各学年、各学級、地域の方にお世話になっている。支援ボランティアの方が楽しそうに子どもとの活動について話され帰られているからこそ、子どもたちの良い学習ができていていると感じる。	B	コロナ感染に配慮して、工夫して行っていく。 そのときどきで学習し終わっていくのではなく、子どもたちの意識が継続するようまた、子どもたちがつながりを求めるような働きかけをしていきたい。			
重点3 目標達成を目指す係活動の充実		職員が少ない中でお互いの声を掛け合い、支え合い、補い合い、さまざまな仕事を進められた。	B	校務で精選できるもの、変えていけるものはないか、見極め、改善できるところから行っていく。			
領域	評価項目	評価の観点	成果と課題				改善策・向上策
教科 指導 活動	授業改善	・ICTの活用を進めることができたか。 ・主体的・対話的で深い学びのある授業を行うことができたか。	調べ学習やアンケートづくり、国語・算数・生活科で活用。子ども達は喜んで簡単そうにこなしている。どんな場面で効果的に活用できるか考えることができた。 全学級 ICT 活用の導入ができた。ICT 主任・ICT 支援員の支援の力が大きい。				ICT 研修をしながら、どんな使い方ができそうか、全体で共有する。まずは授業の中で活用していく。へき振協で遠隔授業のあり方を考える良い機会としたい。 自分から発言したくなる授業づくり。
	思考力・判断力・表現力を伸ばす	・思考ツールを活用しながら3つの力を伸ばすことができたか。	思考ツールを活用する場面をなかなか作り出すことができなかった。折々で思考力・判断力がつくように学習を進めた。まずは1学期は粘り強く学習する態度の育成を重視した。				困難場面に出会った時、自分でなんとかしようとする強さを身につけさせたい。思考ツールの研修を行う。
	家庭学習の充実	・「手引き」を活用し、家庭学習が充実がなされているか。	家庭学習、自主学習が定着した。個に応じて家庭学習を出し、チェックした。個人差、家庭差がある。放課後自習室で家庭学習の仕方を学んでいる。手引きをもとに毎日の宿題を考える習慣になっている。				中学校につながっていけるような自主学習の充実を研究する。 長期休みの前などに手引きの確認をする。配布だけとしない。
	南部支会の連携	・南部支会4校での児童生徒の交流が図れたか。 ・学年会・教科会等での学び合いができたか。	委員会活動を他の2小学校に知らせる活動ができたり、感染状況を見て、直接交流したり、ICT活用をして交流することができた。特別支援学級5、6年児童・保護者が中学見学ができ良い機会だった。教師間ではコロナ対応や日常業務で情報交換・連携を取った。年度当初の学年会で情報交換ができた。				コロナで直接顔を合わせなくても ICT 活用でつながる場を設定する。低学年は顔を合わせた交流が大事。特支学級でも後期交流を実現させたい。

特別活動	自発的・自主的な活動	・認め合い、所属感のある学級活動がなされたか。 ・共生社会の担い手を育成する児童会活動がなされたか。 ・「個の確立」を図る学校行事・集会活動がなされているか。	どの学級も新年度、前向きなスタートが切れた。縦割りの児童会活動がよい。縦割りの清掃や元気アップタイムでの縦割りで活動が大変良かった。休み時間でも充実した児童会活動ができた。委員会企画が次々行われたが、少し忙しかったという意見もある。 音楽会は感染レベルに合わせた方法で行い、一人一人の音楽性が高まった表現を全校児童で鑑賞することができた。		○		行事については感染対策をしながらできる範囲で全員が集まる機会を大切にしたい。オンラインだけにしないようにしたい。6年児童の考えた企画が無理なく実行する時期を選ぶ。
道徳総合	心を耕し、考えを広める時間の充実	・教材研究が十分できたか。 ・地域の素材を生かした学習ができたか。	道徳の時間に、全員が感じたこと。考えたことを発言できた。 ヤギの飼育活動を通して教科をまたいで発展的な学習ができた。 地域の方に協力していただき、充実した活動ができています。 地域から学ぶ機会はあるが、それを広げたり、継続したりすることが課題。		○		・引き続き武石の特色を生かした学習を進めていく。生活科や総合的な学習の時間ではたっぴりと自然や地域のひと、もの、ことに触れさせ、ときにはキャリア教育と関連して行っていく。
家庭・地域との連携	相談・支援体制	・児童、保護者の声を大切にしたい相談を行い、支援につなげることができたか。	相談週間で一人一人の児童と話すことができた。子どもの訴えをしっかりと聞き、共感や支援につなげた。保護者懇談会の時間は短くなった。教師間の連携やSC・SSW・市福祉課などとの連携・協力があつた。保護者の声を学校体制で素早く対応することができた。		◎		自分の気持ちを言葉にできない児童を常に気にかけて、声掛けを続ける。各学級で起きたことを全職員で共有し対応していくという雰囲気大切にしていきたい。
	情報発信	・学校便り、学年便り、ホームページ等で学校の様子を伝えているか。	各学年・係で定期的にお便りを出している。学校保健委員会でコロナ差別について共に考えあつた。HPについては各学年で回した。忙しいという意見もあるが、係ですべて行うのは難しい。		◎		これからも学校の方針や様子をわかりやすく発信していくことを継続していきたい。HP のついても無理のないように進めていく。
	地域から学ぶ・地域の教育力の活用	・自然環境を生かした学びを進めたり、地域の教育力を活用したりすることができたか。	感染レベルにより制約はあるが、米づくり活動では地域の力をかり、お願いを呼び掛けると地位の方が応じてくれる。支援ボランティアとの顔合わせで打ち合わせができたことは良かった。		◎		地域とつながった米作りを進める。これからも積極的に連携しかわっていただきたい。学校側からの発信を工夫していく。
研修	授業力の向上	・「みんながわかる・できる」授業実践のために、日々授業改善をし、研究会を通して学ぶことができたか。	全国学テ・NRTの分析をした。 体育科についてじっくりと研究できた。 全校研究テーマである授業のUD化についてはもっと研修していく必要がある。		○		授業参観を通し、具体的な支援を考え、学び、実践していく。研究テーマである授業のUD化を体育科の授業づくりで行っていく。
組織	情報の共有・全職員による学び合い・支援	・教科指導や生徒指導などに関わる情報を共有し、チームで支援・指導にあたれているか。	・担任・支援員・相談員らと常に情報共有し、気になる児童を複数の目で見えるようにした。また必要に応じて支援会議を開き、情報共有をした。何かあれば一人で悩まず多くの職員で考え対応・学びあう取り組みがあつた。連学年会に専科、特支学級担任も参加し、情報共有をしっかりとしている。また、5、6年では交換授業を行い、児童理解・生徒指導・教科指導の面から良い刺激となった。		◎		現在の取り組み（問題を全員で共有、複数の職員で対応）を継続。問題が小さいうちに対応する。 授業交換の取り組みは互いの児童理解・生徒指導・教科学習の点でもよい取り組みである。できる範囲で行う。

A…達成された

B…ある程度達成

C…あまり達成されていない

D…達成されていない

B欄の◎はAに近いB評価